

私が見たラオス

東京学芸大学大学院 養護教育専攻 1年 小野真実

目次

- ラオスってどこ？
- ラオスってどんな国？
- エコヘルスって？
- 渡航目的
- 主な活動場所、活動内容
- ラオスの変化
- 健康教育を通して
- ラハナムの学校
- ラオス語トレーニングを通して
- スタディツアーのいいところ

ラオスってどこ？



ラオスってどんな国？

約 **651万人**
(千葉県の人口)

約 **24万km²**
(本州の面積)



仏教
(国民の65%)



5月～10月
11月～4月

雨季
乾季




ビエンチャン

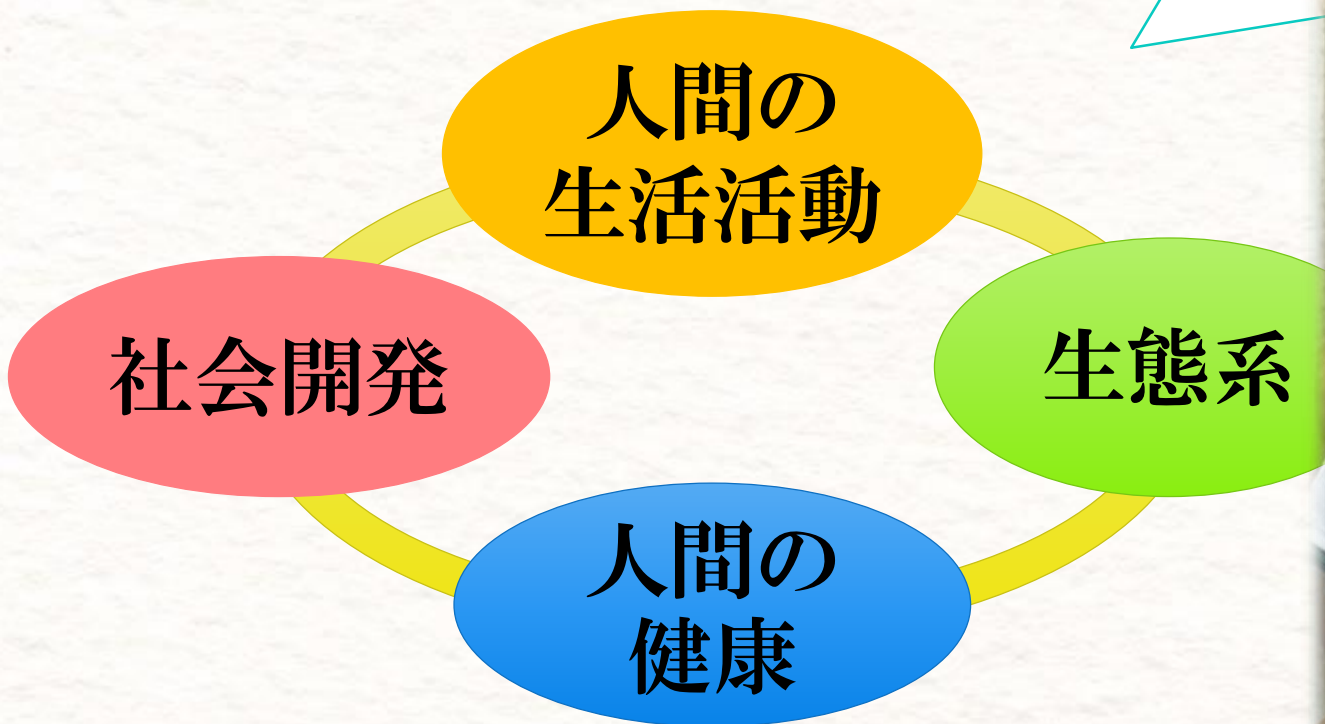


サワナケート



エコヘルス (Eco-Health) って？

バランス良く保つことが重要とする健康観 



渡航目的

青年海外協力隊として派遣されるまであと1年...

- ・エコヘルスマンバーとコミュニケーションをとる
- ・ラオス語を上達させる

ラオス
いい国♡



協力隊ってこんな
仕事してるんだな



私たちが見ている
のはほんの一部...
もっとラオスを知
りたい!



ラオスやエコヘル
スが変化している

主な活動場所・内容

[場所]

- ・ビエンチャン、サワナケート、サラワン、ラハナム

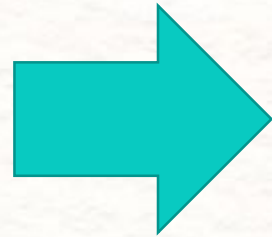
[内容]

- ・エコヘルス教育セレモニー、教員研修への参加
- ・健康診断
- ・健康教育 テーマ「健康診断の意義」
- ・学校内見学



ラオスの変化① ～社会開発～

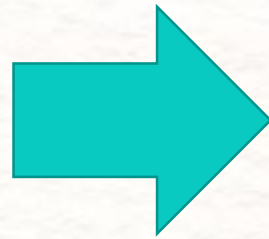
- ブッタパークの観光地化
- ワッタイ空港の拡張
- メコン川の畔につくられた新ナイトマーケットの浸水
→ 雨季の豪雨による被害は予想できたのではないかと…



環境面や健康面の見通しをもった発展を！

ラオスの変化② ～環境～

- ・ラオス国立大学附属小学校に手洗い場が設置された
 - ・ゴミ箱が設置され、ゴミ山がなくなった
- 実際、完全に分別はできていない…



今後は、環境維持、健康行動へのアプローチも必要

健康教育を通して

[前回の反省点を活かして]

- 時間が長い、単調、受け身
⇒ 簡潔に、強弱をつけて、主体的に！

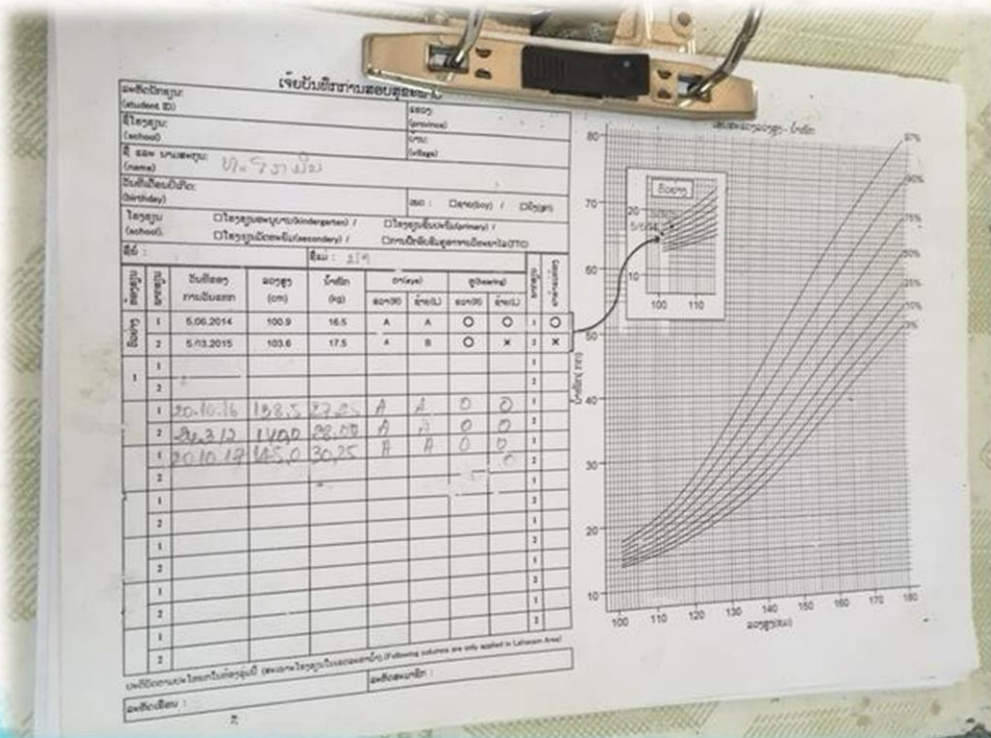
[授業を通して相手を知る]

- サワナケートの子どもたちの様子が分からない
⇒ 発問を通して情報収集(生活習慣、環境を知る)へ



ラハナムの学校

- 子どもが洗練されている印象を受けた
- 健康診断を2008年くらいから継続的に行っている
- 掲示物(教室・校長室)がきれいに貼ってある



ラオス語トレーニングを通して

- とりあえずラオス語を使ってみること(単語でも何でも！)
- 聞く(リスニング、質問) → 書く → 話すのサイクルが大切
- 会話内容が分からなくても雰囲気を感じる
- ラオス語についての質問をする → 会話がはずんだ
⇒ 前回よりラオス人から受け入れられている印象



ツアー全体を通して感じたこと

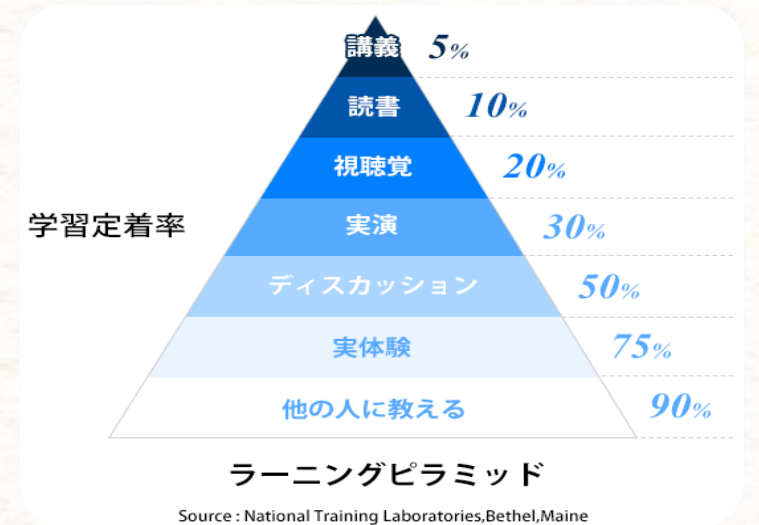
ラオスでも地域によって、暮らしや学校、子ども達の様子が違う

その地域の人たちとの**対話**を通して、
それぞれの生活習慣や健康観を知ってきたい



ラオススタディツアーのいいところ

- ・旅行では行きにくいラオスへ
- ❁ 現地の人と一緒に活動できる
- ❁ 外国人に何かを伝えるという立場
- ・自分の成長へつながる
- ・何度も参加できる





ご清聴ありがとうございました！

